

地下鉄青葉山駅から徒歩15分♪カモンカモ暮らし豊かな自然と変化に富んだ散策路が魅力です！

仙台市 青葉の森緑地

2021年<立春> 自然情報&イベント情報



タマゴケの頭
見ごろ:3月下旬

セリバオウレン
咲き始め:3月上旬

マンサク
見ごろ:3月

『氷瀑ひょうばく』1月末、化石の森に流れ落ちる小さな滝が凍りつきました。

立春(今年は2月3日)を過ぎた森の中は少しずつ春へと模様替え。早春の花マンサクは花弁をのぞかせ、タマゴケが待ち針のようなサクを伸ばし始めました。タマゴケの丸いサクが見られるのは3月下旬~4月上旬だけ！
 特集記事は **青葉の森「地形・地質の注目ポイント」** 青葉の森緑地で大地の成り立ちを体感してみませんか？
 「青葉の森緑地」は森歩きを楽しむ公園です。歩きやすい散策道~トレッキング向きの道まで多様な散策路が揃っています！

ブログでイベント詳細や自然情報を発信しています！

青葉の森緑地 ブログ で検索！
<http://blog.livedoor.jp/skrk2-aobanomori/>

ブログ

青葉の森 管理センター
 中央入口の奥にあります。
 青葉山駅から徒歩15~20分

青葉山駅方面からお越しの場合、
 聖教大(宮城教育大学)正門から
 200m先にある、青葉の森中央入口
 を入ると建物と駐車場があります。

<アクセスのご案内> 仙台市青葉の森緑地 青葉の森管理センター

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉260 TEL (022)-263-2101

●青葉山駅から管理センターまでの詳細地図。案内図をブログで紹介しています。

青葉の森緑地主催 □2021年2月~3月□

イベント情報

(歩く時間のめやす) ☆:30分以下 ★:1時間程度

はしご下りづくり！

小さなはしごをコマが回転しながらカタカタ下りていく様子が楽しい！なつかしいおもちゃを手づくりします。

日程	2月21日(日) 10:00~12:00
対象	小学生以下の子と保護者【定員】5家族(抽選)
申込み★	下記<※必要事項>を明記してメール/FAX ※往復ハガキ不可<2月10日必着>

春彼岸の けずり花作り 体験

仙台地方に伝わる木工細工のおそなえ花(けずりばな)を専用の刃物を使って作ります。(木工細工体験会)

日程	①3月12日(金) 10:00~12:30 ②3月13日(土) 10:00~12:30
対象	鉛筆をナイフで削ることができる方 【定員】各日5組(5~10名)
申込み★	【申込方法】電話(申し込み受付先着順) 【受付開始】3月6日(土)午前9時

※道具と材料に限りがあるため、材料の配布は申込1件(参加1組)につき木の枝6本です。(花は6~12輪作れます)
 ※難易度は鉛筆をナイフで削るくらい。削り花専用の刃物を使うため、道具を使いこなすための練習に時間がかかることがあります。専用刃物は石利き用のみとなります。



<お問合せ・申込みは> 仙台市青葉の森緑地 青葉の森管理センター

【基本の持ち物(特に記載がない場合)】この2つは必須！
飲み物・動きやすい服と靴

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉260
 TEL : (022) 263-2101
 FAX : (022) 263-2102

【申込み専用メールアドレス】
 aobanomori_moushikomi@sendai-park.or.jp

<※必要事項>
 ①イベント名 ②住所 ③でんわ ④参加者全員の氏名
 十こどもは年齢も ⑤FAX・メールの方はそれぞれ返信先(申込み★)

*応募多数時抽選*抽選結果は当選書へのみ、締め切り日の翌日またはイベントの一週間前までに返信します。
 *締め切り後に空席がある場合は先着順で電話受付します。

<新型コロナウイルスへの対応について>
 イベントの規模縮小、中止、日程や内容を変更する場合があります。最新情報は表紙で紹介しているブログで確認するか、電話でお問い合わせください。

冬の散歩

自然観察しながらゆっくり森を歩きます。
 (歩く時間:★★)

日程	2月13日(土) 10:00~12:00
対象	どなたでも♪【定員】15名(先着)
申込み★	【申込方法】電話(申し込み受付先着順) 【受付開始】2月6日(土)午前9時

セリバオウレンのお花畑を見に行こう！

森に香を告げる白い花セリバオウレンが群生する様子など、野草を中心とした自然観察会。(歩く時間:★★)

日程	3月20日(土) 10:00~12:00
対象	どなたでも♪【定員】15名(先着)
申込み★	【申込方法】電話(申し込み受付先着順) 【受付開始】3月13日(土)午前9時

青葉の森の歴史発見

青葉の森緑地内の歴史的な痕跡をめぐるガイドツアー-外部講師を予定しています。(歩く時間:★★)

日程	3月27日(土) 10:00~12:30
対象	おとな~中学生【定員】15名(抽選)
申込み★	下記<※必要事項>を明記してメール/FAX ※往復ハガキ不可<3月10日必着>

<管理センターまでのアクセス案内>



青葉の森「地形・地質の注目ポイント」

地質学の専門家に「青葉の森」の観察しておくべき地形・地質のチェックポイントを解説していただきました。6つのポイントに絞ってご紹介します。みなさんも有史以前の「青葉の森」に思いを馳せながら、散策してみてもいいでしょうか？

ポイント1 山の上の丸い石

「カタクリのみち」にある川です。山の上なのに丸い石がある？ では、丸い石のある場所といったら？ そうです。川や海ですね。ここの地層はかつては川か海だった場所が隆起したということになります(今は標高100m~120mくらい)。ここでは川の流れて地層が削られて丸い石が出てきています。この地層は青葉山層といい青葉山の一番上の地層です。



丸い石がゴロゴロ

ポイント2 斜面崩壊

ポイント①から疎林広場への登る途中です。2019年10月に発生した台風19号で崩れた斜面です。県内では丸森の被害が大きかった災害で、青葉山周辺の丘陵のいたるところでも小さな崩壊が起きていました。

土の層が形を保たずに崩れることを「崩壊」と言いまして、表層(数十cm)と深層(10mとか20m)があり、ここの崩壊は表層で30~50cmくらいでしょう。このような崩壊が繰り返し発生しているのが青葉山です。

日本はよく山が崩れます。それは雨が多からなのと、地質年代の新生代の第三紀にできた固くない、風化しやすい、どんどん柔らかくなる石が基盤ということも影響しています。崩れるべきものだから崩れるということなんです。

ちなみに、日本語では「地すべり・山崩れ・崖くずれ・斜面崩壊」などと色々な言葉がありますが、英語だと「ランドスライド[Landslide]」ひとつのみだそうです。現象が多いと言葉は細分化していくということですね。



表層だけが崩れ倒木が発生

ポイント3 奇妙な平坦地

ポイント②から少し登ったあたりです。特徴は平らで散策路に対して左右が斜面になっており、その斜面との境には川があります。

ここは地すべりで平らになったと考えられる場所だそうです。地層は崩れずに滑り落ちたような形です。破碎されてもろくなった両脇に沿って川が流れて谷になっていきます。左右の斜面は崩れずにそのまま残ったということなんです。

「防災科学技術研究所の地すべり地形分布図」を見ると、青葉山周辺は地すべりが多いことが解ります。斜面崩壊・地すべりが仙台の丘陵の縁辺で多く発生していて、とくに川に沿ってが多く、このプロセスが仙台近郊の丘陵地を侵食(石を風化作用が「侵し蝕む(おかし、むしばむ)')しているそうです。



妙に平らです



南側斜面



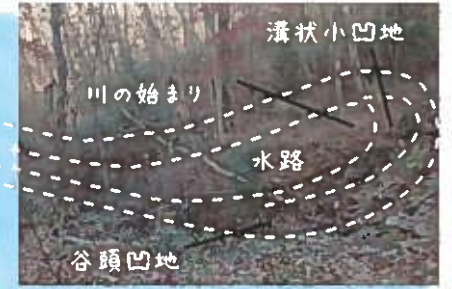
北側斜面

ポイント4 山の上で川の始まり

ここが川の始まりです。上流側は普通の斜面なのですが、ここから急にえぐられて谷が始まっています。プロセスとしては崩壊が起きて出来た谷で、その谷の底は雨が降らなくても湿っていて、雨が降れば水流が見られます。

どうしてここで崩壊が起こるかというところ… ①雨が降って斜面の凹地形に水が集まり、不透水性の岩盤の上の土の空隙に水

が入り込む ②土層の空隙が水で満たされ、土層はどんどん重くなり斜面の下へ落ちそうになる ③でも通常は斜面の土層は下へは落ちないが、それは岩盤との摩擦があるから。しかし岩盤との摩擦を弱めるのが空隙を満たす水で、下へ落ちそうになる力が摩擦力を上回ると崩壊が起こる ④下へ落ちそうになる力が摩擦力より小さいと崩壊は起こらず、土層の空隙が水でどんどん満たされて飽和帯が地表に達すると水が沁みだして地表流が発生する。こういう川の始まりもあります



ポイント5 化石の森の大露頭

化石の森です。地層がむき出しになっており、素人目にもいくつもの地層が重なっていることが分かります。

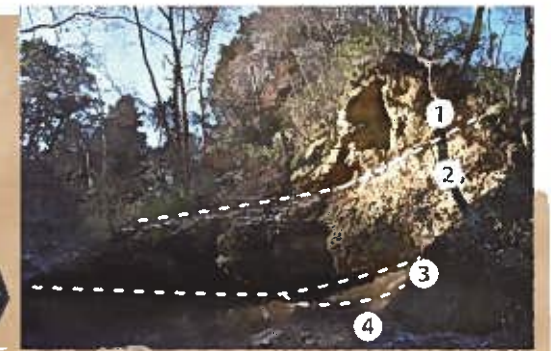
①一番上の滝ノ口層は貝があることから浅い海だったと はまぐりの化石

②その下の丸い石が集まった層は三滝の玄武岩(火山の溶岩からできた)の円レキ層。レキが丸いので川だったと考えられる

③目を凝らすと足元にキラキラ光るものが…。これは、この凝灰岩層からの「高温型石英」という火山から噴出したもの。探せば1cmくらいの大きさのものも見つかるかも？

④亀岡層は陸で堆積した地層。地層をよく見ると亜炭(木の化石)が入っているのが分かる

※ちなみに、化石の森の滝の水はあることの一部に使われています。さて、何に使われるのでしょうか？ 答えは「青葉の森」のブログで！



ポイント6 淘汰の悪い地層

ここでは広瀬川凝灰岩層が露出していて間近で見ることができます。水が開与していない火砕流堆積物の典型的なものだそうです。水が開与していないというのは、噴出された火砕流が降った順番に積み重なった状態ということで、火砕流の大小の粒がバラバラに混ざり合っています(水が開与していると大きな粒が下に、

細かい粒が上に規則正しく堆積します)。では、いつどこが噴出したのかといいますと、現在の説では仙台市の西部に位置する白沢で約350万年前くらいに噴出したと考えられているそうで、北は根白石から南は岩沼周辺まで火山灰に覆われたのではないかといいことなんです。広瀬川凝灰岩層ができた350万年から200万年前は東北地方にきなカルデラがたくさんあって火砕流堆積物が出ています。仙台で火山というと鳴子や蔵王と少し遠いイメージですが、凝灰岩層が足元にある場所でもあるのです。



広瀬川凝灰岩層が露出しています

コチラのQRは「氷点下7.6℃の朝の化石の森の滝と川のせせらぎ」の動画です

